

## キャリアデザイン学研究科

### I 2014年度大学評価委員会の評価結果への対応

- ・2013年よりキャリアデザイン学研究科は経営学研究科より独立し、その後2年を順調に経過し今年は設立3年目に入る。2014年度のキャリアデザイン学研究科に対する大学評価委員会の評価結果は、全体的に良好な評価を得ることができた。これまで独立以来研究科を段階的に充実・深化させ、着実に目標達成する努力を行ってきた結果と考える。
- ・研究科として独立した後、全教員が結集して研究科の新たな充実を図り、研究・学習の質をさらに向上させるために、弛まぬ努力を重ねてきた成果が評価されたと考えている。
- ・現在、秋・春2回の入学試験を行い、2014年度は19名、2015年度は17名の入学者を受け入れているが、募集定員に20名に対し100%の充足率とはいえない。未充足の原因は応募者は毎年一定数を維持できているが、質保証の観点から志願者の厳選を行った結果である。しかし、今後は未充足状況を防止するために、多様な手段を通し社会にキャリアデザイン学研究科に対する認知を拡大し、優秀な社会人の志願者を多く集め厳選しつつも定員充足率を100%になるよう一層の努力を行う。
- ・課題としてはシラバスの適切性、シラバスに基づく授業展開の検証は、もっぱら学生による「授業改善アンケート」を分析・参照し、授業やシラバスに関わる課題を明確化し、改善努力を行ってきたが、シラバスの適切性検証をどのような方策で行うかに関しては、今後も継続して検討し改善努力を行う予定である。
- ・キャリアデザイン学研究科はグローバル化への対応に関し、昨年度の評価報告では「社会人としてより高度な専門職を目指す者などを選考対象としていることから、留学生の受け入れの充実には難しい面があることは理解できる」と厚意的なコメントを得た。キャリアデザイン学研究科は、社会人を対象とした研究科であり、高度職業人の養成を目的としているとはいえ、今後本研究科が受け入れる学生の選抜基準に合致し語学力にも優れている留学生の志願者が、本研究科の合格基準を満たすのであれば、留学生に対する門戸を開く努力を行うことは吝かではない。現状では、院生の中には日本語学校の教員や1年間大学院を休学し海外赴任して国際的なビジネスで活躍している院生、外資系企業の人事部門で活躍する院生、グローバルに事業を展開する企業で業務を担当する院生など、間接的ではあるがキャリアデザイン学研究科の院生としてグローバル化の課題に対応している。

### II 現状分析

#### 1 理念・目的

1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。

①研究科（専攻）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。

キャリアデザイン学研究科の理念・目標は次の通りである。「経営・教育・心理・文化の4つの専門分野を基盤に置き、個人のキャリアを学際的に研究するとともに、企業・公共団体、NPO、大学・高校などにおいて人々のキャリア支援を行う高度職業人を養成する」。これはキャリアデザイン学研究科の目指す方向性を明らかにした理念・目的である。

1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

①どのように理念・目的を周知・公表していますか。

キャリアデザイン学研究科の理念・目的は、募集要項、ホームページ、毎年開催されるキャリアデザイン学研究科の公開シンポジウム、大学院紹介の冊子などを通じ教職員および学生、受験生等に明示され広く社会に公表し周知されている。

1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

①理念・目的の適切性を定期的に検証していますか。また、その検証プロセスを説明してください。

大学院生の研究成果物や修士課程修了後の継続的研究活動、学会発表・学会誌への論文投稿などの具体的成果、また、修了生の広く社会におけるキャリア支援活動報告などを通して、キャリアデザイン学研究科が掲げる理念・目的が具体的に達成されているかを定期的に検証している。

#### 2 教員・教員組織

2.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①学位授与方針およびカリキュラムを前提とした教員像、教員組織の編制方針を明らかにしていますか。具体的に説明してください。

キャリアデザイン学研究科は、①キャリア教育・発達プログラム、②ビジネスキャリアプログラムの2つのプログラム制から構成され科目を配置している。科目は①基礎科目（調査研究法基礎、量的・質的調査法）②共通科目（心理学関連科目、コミュニティ関連科目）、③キャリア教育・発達プログラム科目（3科目5教科）とビジネスキャリアプログラム（3科目5教科）の2プログラム科目から構成されている。

担当教員はそれぞれがキャリア研究の専門性の高い研究者から構成され、①キャリア教育・発達プログラムでは、職業キャ

リアや生涯学習、就職問題や労働問題、キャリア教育の研究者が教育・指導を担当している。また②ビジネスキャリアプログラムでは、ビジネス領域における組織問題、人的資源管理、労働問題、キャリア開発、経営戦略、労働経済学等の研究者が教育・指導を担当している。キャリアデザイン学研究科の2つのプログラムではバランスよく科目と教員を編制している。

②採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

キャリアデザイン学研究科においては2011年に大学院担当教員の基準を作り、資格要件、求める能力・資質を明確化している。基準に基づき高度な専門性、優れた業績をもつ研究者であり、かつ社会における現場でのキャリアに纏わる多様な課題に関する調査・研究の指導が可能な教員を採用し適正に配置している。2015年度からは新たに「キャリア調査研究法基礎」を担当する教員を採用し、これまで「量的調査法」と「キャリア調査研究法基礎」が兼任で担当されていた状況が解消された。

③組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。その体制について概要を説明してください。

上記のように新たに「キャリア調査研究法基礎」科目の担当教員を採用し「キャリア調査研究法基礎」と「量的調査法」が兼任であった課題が解決され、科目の役割分担が実現した。現在は、①基礎科目担当教員3名、②共通科目担当教員5名（うち1名は兼任教員）、③キャリア教育・発達プログラム担当教員5名、④ビジネスキャリアプログラム担当教員5名により役割分担を行い組織的な教育・指導を行っている。

教員は授業の他、入試、入学相談、シンポジウム、質保証委員、成果物の編集、修士論文指導などの役割を担いその責任を遂行している。また、修士論文の指導担当教員に関しては、院生の希望や教員の専門性を勘案し、執行部が調整を行い教授会で最終決定を行い、教員は責任をもって論文指導を行っている。

## 2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①研究科（専攻）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。また、なぜそのように判断しましたか。

上記にも記載したが、キャリアデザイン学研究科は2つのプログラムより構成されている。そのベースに基礎科目、共通科目を配置している。これらを担当する教員は専門性の高い教育学、経営学、隣接学問分野（心理学、社会学）等の教員であり、キャリアデザイン学研究科の教育理念・目的に叶った教員組織となっている。2015年は、修士1年（17名）、修士2年（20名）計37名に対し、教員は新たに採用した2名の教員が加わり専任教員17名（うち1名は国内研究）体制で院生の教育・指導を行っている。小規模ながらも本研究科はスムーズな運営が行われており、院生のアンケートによるフィードバック等からも充実した教員組織を備えていると判断している。

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

キャリアデザイン学研究科においては、学部の教員採用とも効果的にリンクさせながら、若手研究者を積極的に採用しており、年齢的な偏りによる教員のアンバランスはみられない。

## 2.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①各種規程は整備されていますか。

キャリアデザイン学研究科では、2011年に大学院担当教員の基準を明確化し規定を整備しており、その規定に基づき適切に募集、任免、昇格は実施されている。

②規程の運用は適切に行われていますか。規程に沿った募集・任免・昇格のプロセスを説明してください。

キャリアデザイン学研究科は社会人大学院生よりなる研究科であり、社会人院生のニーズに適合した高度な教育・研究指導に対応できる教員体制を整備することが必要である。このため、学部専任教員採用の折には、大学院教育も担当可能な研究者であることを前提とした採用を行っている。

募集に際し、専門領域と大学院カリキュラムとの整合性も同時に勘案しつつ、規定を参照しながら大学院教授会でも意見交換し、結果を学部の教員採用人事に反映するようにしている。

## 2.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①研究科（専攻）内のFD活動はどのように行われていますか。具体的に説明してください。

キャリアデザイン学研究科では、法政大学キャリアデザイン学会を独自に開催し、大学院の他専攻の方々にも公開しており、キャリア研究者、実務家など先端的な研究業績を有する研究者等を演者に招聘し、学会活動を積極的に推進している。法政大学キャリアデザイン学会は大学院教員、大学院生と修士生や関心のある人々に公開しており、多様参加者との交流を通し相互の自己研鑽を促進している。

また、キャリアデザイン学研究科では年間3回大学院生の修士論文の発表会（構想発表会2回、中間発表会1回）を実施している。計3回の修士論文発表会には全教員、全院生が参加し各研究発表に対しフィードバックを行うことを通して、研究科をあげて、発表会を修士論文の集団指導の場としている。指導担当教員以外からも、研究に対する助言・指導を受けられ

るため、教員・院生ともに相互啓発の場として機能している。すなわち、発表会の研究発表会の場合は、指導担当教員にとっても自身の研究指導のあり方を客観的に見直す貴重な機会となっている。他に、毎年キャリアデザイン学研究科シンポジウムを実施している。大学院シンポジウムは本研究科進学希望者のみならず学内外に広く公開し、キャリアデザイン学研究科の研究内容・研究活動を社会に広報し、研究活動を活性化する努力を行っている。このような本研究科の研究・指導成果を学外に問う機会は、教員同士の相互啓発や資質の向上にも大いに寄与し研究科内のFD活動となっている。

②研究活動を活性化するためにどのような方策を講じていますか。

上記のように、法政大学キャリアデザイン学会の開催、大学院シンポジウムの実施、修士論文の発表会（構想発表、中間発表）の開催などを積極的に行い研究活動を活性化している。

また、院生の研究成果・業績を『研究成果集』にまとめ教員、院生が絶えず共有することを通して、研究活動を活性化する努力を不断に継続している。

### 3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

#### 3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

①研究科（専攻）として修得しておくべき学習成果、その達成のための修了要件等を明確にした学位授与方針を設定していますか。

入学直後の新入生オリエンテーション時より、キャリアデザイン学研究科における修士課程の履修方法、履修総単位数、プログラム制、修士論文作成と合格基準等に関する説明を詳しく行い、その場でキャリアデザイン学研究科の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針について明示している。また、修了生の修士論文『研究成果集』（冊子、CD-ROM）を配布し、学位論文の内容やレベルを提示している。学位授与方針として、学位基準は2011年に明確化され学位授与方針と基準は、上記のように入学直後から重要事項として周知徹底させている。学位論文は主査、副査による複数の教員により厳正に審査されており、論文口述試験では、主査・副査以外にも、そのプログラムに属する教員も一緒に合否を討議し厳正に合否を決定している。

#### 3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

キャリアデザイン学研究科は、前述の通り2つのプログラム制を導入しており、修士1年時の秋学期に希望する研究内容に相応しいプログラムのどちらかを選択することになっている。その前提となる基礎科目では「キャリア調査法基礎」「量的調査法」「質的調査法」の3科目のうち4単位以上を選択必修、また共通科目5科目のうち4単位以上を選択必修とし、キャリアデザイン学研究科の体系的な教育課程の編成、実施方針を以上のように院生に入学時より明示している。

#### 3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。

①どのように教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

キャリアデザイン学研究科は2013年度に、経営学研究科より独立した。本研究科が開設されたことに伴い、上記1. のように独自の教育理念・目標を掲げ、新たに教育課程を編成し実施方針、学位授与方針を明確化し広く社会に公表した。ホームページ、募集要項、大学院シンポジウム、進学相談会における丁寧な説明、詳しい授業内容を記載したシラバスの充実等を通して、広く社会に情報発信してきた結果、今日に至るまで多くの入学志願者を募ってきた。このように、あらゆる機会を捉えてキャリアデザイン学研究科の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知、公表する努力を重ねている。

#### 3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

①教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性に関しては、大学院教授会において、機会あるごとに定期的に振り返り、全教員参加の討議を通して、当面の課題を整理し改善提案を行い、実行可能な所から具体的に行動に移している。また、学生による「授業改善アンケート」結果からも研究科のあり方や適切性を検証する貴重な資料として精査し検討を行っている。

### 4 教育課程・教育内容

#### 4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークをどのように位置づけていますか。

キャリアデザイン学研究科は、前述のように、2つのプログラム①キャリア教育・発達プログラム、②ビジネスキャリア・プログラムより編成されプログラムに対応するプログラム科目が設置されている。コースワークはリサーチワークのための事前準備として位置付け、基礎科目3科目、共通科目4科目が設置されている。その上でリサーチワークに対する個別指導を行う「演習」から構成されている。基礎科目はリサーチワークに必要な調査法を習得するための科目、共通科目は、心理

学や社会学、コミュニティ関連科目から構成されている。これらの基礎科目、共通科目を土台として、院生は2プログラムから1つのプログラムを選択する。各プログラム科目は、個人のキャリア発達・キャリア開発に焦点を当てたキャリア発達科目群、キャリアを支援する組織や専門職機能を考えるキャリアプロフェSSIONAL科目群、個人の組織行動を条件づける社会的な政策や制度を検討するキャリア政策科目群から構成されている。以上のように教育課程を体系的に編成し、関心のある研究テーマを掘り下げることが可能とするように綿密に組み立てられている。

②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。また、コースワーク、リサーチワークをどのように位置づけていますか。

キャリアデザイン学研究科は、現在修士課程のみで博士後期課程は設置していない。

博士後期課程の設置に関しては、今後の長期目標のひとつとして検討していく予定である。

4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。

社会人大学院生の大学院に対する高度なニーズに適正に対応し、教育・指導をさらに充実させるために、毎年カリキュラムや講義内容、教員の配置などを検討し、専門分野の高度化に対応した教育内容とすることに努めている。2015年度からは、これまで兼任であった「キャリア調査研究法基礎」は専門性を有する教員を新たに採用、また「産業・組織心理学」担当の教員の退職に伴い新たに専門性の高い教員を採用し、調査法や心理学関連科目をさらに一層充実させ高度化に対応する教育内容を提供している。

②大学院教育のグローバル化推進のためにどのような取り組みをしていますか。

キャリアデザイン学研究科の教育目標は高度職業人の養成を目的としている。留学生の応募者もあるが、合格基準を満たす留学生や外国籍の受験生がいないのが現状である。このため学生の質を重視し質保証の点から現状ではグローバル化には至っていない。今後は質が高く合格基準を満たす受験生には積極的に入学チャンスを与えグローバル化を推進したいと考えている。

## 5 教育方法

5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

①学生の履修指導をどのように行っていますか。

前述の通り、履修指導に関しては入学後のオリエンテーション時に、大学院要項、大学院講義要項を参考に、大学院での2年間の学習を展望した履修指導を詳しく行い疑問点に関する質疑応答を行い懇切丁寧な履修指導を行っている。また、新入生オリエンテーションにはキャリアデザイン学研究科の全教員が出席し、担当する授業概要に関しシラバスを基に説明を行っている。同時に修士2年生からも詳しく学習指導や研究生活指導(図書館や専攻研究室の使い方など)が行われている。

②研究科(専攻)として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。

上記の新入生ガイダンスでは、詳しく学習指導を行い修士論文執筆までに至る流れやその過程を書面で説明している。ガイダンス後に実施される2年生による「修士論文構想発表会」では、1年生も全員出席し、修士論文発表を聴く機会を与えている。また、1年生には、2年生の修士論文研究テーマとその概要の一覧表を配布し、1年生が今後大学院での研究計画を作成するための参考資料となるようにしている。また、修了生の修士論文の概要を収めた『研究成果集』(冊子、CD-ROM)を全員に配布し学位授与される論文のレベル、論文内容、研究方法等、参考にできる資料として与え、全学生が知ることができる状態にしている。

③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導をどのように行っていますか。

新入生ガイダンス時より具体的な学位授与基準6項目を明示し、これらの基準を満たすことが必要であることを周知させ、大学院2年間の研究と学習に対する動機づけを行っている。

具体的には、1年次の11月に第1回「修士論文構想発表会」を行い、その後、希望する論文指導教員と研究に関する相談を学生が自由に行い、指導教員の希望申請を提出する。執行部は院生の希望や研究テーマを総合的に検討し、論文指導教員を決定している。その後、個別に研究指導を受け、2年次4月に第2回「修士論文構想発表会」、2年次9月には3回目の研究発表となる「修士論文中間発表会」を行う。このように段階的に研究発表を行う場を3回設けている。こうした修士論文発表の場では、指導教員以外の多くの教員や院生からも研究発表に対するフィードバックをもらい、今後の研究の展開と深化のための参考に役立っている。指導教員も他の教員からのフィードバックを参考に指導に役立っており、研究の集団指導の場として機能している。

5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。

①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

シラバスは授業内容、展開と授業計画、到達目標などを詳細に明示し、学生の履修計画に必要な情報を与えている。シラ

バスの適切性に関しては、まず執行部がシラバスの内容・形式に事前に目を通し、改善が必要な場合には修正を指示し適切性を図っている。また、シラバスの適切性の検証として「学生による授業改善アンケート」「修了生アンケート」結果を詳しく分析し、シラバスに関し指摘されている課題を大学院教授会の場で取り上げ、シラバスの改善点を整理し、実行に移している。

②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。

上記と同様「学生による授業改善アンケート」をもとにシラバスに沿って授業が展開されているかを検証している。授業改善アンケートの自由記述欄における指摘を分析し、シラバスに基づく授業運営のあり方について教授会で意見交換を行いシラバスの検証を行っている。

5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

①成績評価と単位認定の適切性をどのように確認していますか。

成績評価は各教員が責任をもって厳正に行い単位を認定している。修士論文の審査は、学位授与基準にのっとり、主査、副査2名、計3名による審査を行っている。論文の口述試験後には、主査・副査が評価を照合し意見交換を行い最終的な評価を厳正に行い合否を決定している。

5.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

①教育成果の検証を研究科（専攻）ごとに定期的に行っていますか。

前述の通り、キャリアデザイン学研究科では、1年次に1回、2年次には2回の修士論文研究発表会を開催している。この研究発表会には全教員、院生1・2年生全員が出席し研究発表を聴きフィードバックを返す場となっている。3回の研究発表の場では、個々の教育成果が明らかにされ、発表の場で今後の研究に対する指導が集団でおこなわれている。指導担当教員も他教員や院生からのフィードバックを参考にすることにより、客観的な視点から自己の研究指導を再度見直し、今後の修論指導の方法等を改善する場にもなり、教育成果を定期的に確認する場として機能している。

②学生による授業改善アンケート結果をどのように組織的に利用していますか。

学生からのアンケート結果は、全授業の集計結果を執行部で検討するとともに教授会において、各教員にアンケート結果をフィードバックしている。その結果に基づき自己の授業を振り返り、改善が必要な場合には即実行に移し、教育・指導の質的な向上努力を研究科全体で絶えず図っている。

## 6 成果

6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

①学生の学習成果をどのように測定していますか。

各授業においては研究発表、討論、事例発表、課題提出などを行い、授業内で多様な機会を捉え、学生達の授業理解度、学習目標への到達度や成果を把握している。また、前述のように年3回の修士論文発表会においては、学生の研究進捗度や研究の深化レベルを定期的に把握し指導を行っている。修士論文の審査結果からも、論文レベルが合格基準に叶った質の高いものであるかを精査し、学生の学習・研究成果が教育目標に沿ったものとなっているかを測定している。また、修了生や院生による関連学会での研究発表、論文投稿などからも本研究科の教育・学習成果を測定している。

6.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

①学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。

学位基準に関しては2011年に教授会で決定し、学位授与基準を明確化し、入学後のガイダンスから詳しく説明し学生に明示している。また、修了生の『研究成果物』を冊子やCD-ROMにし、全員に配布することにより学位論文の審査基準を示し、あらかじめ学生が知ることができる状態にしている。

②学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）をどのように把握していますか。

学位授与基準に基づいた厳正な論文審査を行うことにより、キャリアデザイン学研究科の学位水準を適正に維持する努力を行っている。結果、修士論文提出者に対する学位授与率は例年ほぼ100%である。また、仕事や健康上の理由から休学者も時には存在するが、学位取得までの年限は約90%強が2年間の修士課程を経て学位を取得することができている。

③学位の水準を保つために、どのような取り組みを行っていますか。

学位の水準を保つためにはその基準を院生に入学時から周知徹底させ、大学院での学習に取り組ませている。また、3回の修士論文発表会を段階的に実施し、論文指導を集団で受ける仕組みをつくり、そこで厳しいフィードバックを受けることによって、研究をさらに発展・深化させ高い研究水準を維持する取り組みを研究科一丸となって取り組んでいる。加えて、修了生の『研究成果集』も学位の水準を院生に明示する参考資料となっている。また論文審査においても、学位を授与するに値する水準の研究論文か否かを厳しく審査し、時には主査・副査に加えプログラム内の他の教員も加わり審査を行い、論文審査の適正性を確保し学位の水準維持に取り組んでいる。

④就職・進学状況を把握していますか。

社会人学生のみでの研究科であり、入学時に勤務先を把握している。	
<b>7 学生の受け入れ</b>	
7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。	
<p>①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。</p> <p>募集要項には入学を希望する者に対し、選抜方法、選抜基準などを明示している。キャリアデザイン学研究科は社会人を対象とする研究科であり高度職業人を養成することを目的としている。このため受け入れ方針として、研究成果を活かせるフィールドをもつ、職業経験のある者としている。結果、求める学生像としては本研究科の教育プログラムと志願者の研究計画が照応し、研究計画が実行可能と推察される者である。研究テーマが研究可能であるかの現実性、テーマの重要性、テーマが本研究科のプログラムに合致し、教員が指導可能であることが受け入れ方針として明示されている。これらの受け入れ方針は、入学要項、ホームページ、大学院シンポジウム、入学相談会などにおいて詳しく説明されている。また入学試験においては、研究計画書、キャリアヒストリー、筆記試験、面接試験を実施し総合的な審査結果により公平な選抜を行っている。</p>	
7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
<p>①定員の超過・未充足にどのように対応していますか。</p> <p>募集定員は20名としている。入試を秋・春2回実施し、2014年度は19名、2015年度は17名の入学者を受け入れている。2015年度の秋入試の入学志願者は21名、内7名合格、春入試は応募者21名、内10名合格者を出し合計入学者は合計17名である。2015年度は17名と少なめで定員の20名には満たないが、学生の質を厳選し質保証重視の観点から17名の合格者となった。本研究科は質保証を重視し志願者を厳選し適正に在籍学生数を管理している。今後は未充足状況を防止するために、様々な手段を通してキャリアデザイン学研究科の広報活動を行い、優秀な志願者を多く集める努力を行う。</p>	
7.3 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。	
<p>①学生募集および入学者選抜の結果についてどのように検証していますか。</p> <p>学生募集に関しては、ホームページ、入学案内パンフレット、入学相談会、大学院シンポジウムなど、あらゆる機会を通して入学志願者に対し詳しい入試情報を提供している。</p> <p>入学選抜試験には全教員が関わり、受け入れ方針に基づいて公正な入試を実施している。入学試験結果に関しては、結果を全教員が注視し、結果の分析を行い、志願者と入試傾向、その課題を全員で共有し合い絶えず入学者選抜について検証努力を行っている。</p>	
<b>8 管理運営</b>	
8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。	
<p>①研究科長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。</p> <p>キャリアデザイン学研究科では、研究科長（主任）1名、副主任1名を置き、2名の執行部体制をとり管理運営の主たる責任を担っている。月に1度大学院教授会を開催し、報告事項、審議事項、それに伴う資料等を文書で明示し、教員全員で率直な意見交換を行い意思疎通を図り、機能的に研究科の運営管理を行っている。4月の年度初めの教授会では、明文化された規定はないが、教員の年間役割分担を決め、各自が責任をもって役割を遂行し研究科を適切に運営している。</p>	
<b>9 内部質保証</b>	
9.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。	
<p>①質保証委員会は「果たすべき基本的な役割」に則して適切に活動していますか</p> <p>本研究科は、学生定員、担当教員も他の研究科と比較すると小規模で運営されており、定例的に開催される教授会の場で、機会ある毎に質保証に関する話し合いを全教員で行い点検している。入試状況、授業、論文指導、研究発表会等に関して、積極的な意見交換や課題提起を行い、入試、教育指導など質確保に強い意識をもち維持・改善努力を行っている。また、質保証委員2名を選定し、質保証委員会を年2回開催している。質保証委員会では、授業改善アンケートの結果に基づいた意見交換、修士論文評価とその指導のあり方等に関し、振り返りを行い本研究科の質を保証することに絶えず力を注いでいる。</p> <p>②広義の質保証活動への教員の参加状況を説明してください。</p> <p>上記で述べたように、教授会において教員全員が質保証の観点から、本研究科の改善課題を明確化し、全員参加で活発な意見交換が行われている。このため教員の質保証に対する意識は常に高く維持されており、質向上努力を全教員が責任をもって行っている。</p>	
<b>現状分析根拠資料一覧</b>	
資料番号	資料名

1	理念・目的	キャリアデザイン学研究科募集要項、講義要項
2	教員・教員組織	キャリアデザイン学研究科募集要項、講義要項
3	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	キャリアデザイン学研究科募集要項、シラバス、講義要項
4	教育課程・教育内容	キャリアデザイン学研究科募集要項、シラバス、講義要項
5	教育方法	キャリアデザイン学研究科募集要項、シラバス、講義要項
6	成果	キャリアデザイン学研究科研究成果集（冊子、CD-ROM）
7	学生の受け入れ	キャリアデザイン学研究科募集要項
8	管理運営	キャリアデザイン学研究科教授会議事録
9	内部質保証	学生による授業改善アンケート
	学生支援	キャリアデザイン学研究科募集要項
	教育研究等環境	キャリアデザイン学研究科募集要項
	社会連携・社会貢献	キャリアデザイン学研究科募集要項、研究成果集（冊子、CD-ROM）

### Ⅲ. 研究科（専攻）の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチワークの向上により修士論文のさらなる質的向上を図るため、重要な基礎科目である「キャリア調査研究法基礎」、「量的調査法」「質的調査法」教育のさらなる充実を図り、キャリアデザイン学研究科のコースワークをさらに組織的・体系的に発展・深化させる。</li> <li>・修了生の研究成果の社会的発信、学会発表、学会への投稿などの継続的促進。修了生の高いレベルの維持・向上を行う。そのために、教育研究指導方法をさらに充実・向上させる。</li> <li>・質保証を担保した入学定員充足の維持・向上を行う。そのためには、上記と同様、大学院シンポジウム、入学相談会、法政大学キャリアデザイン学会の研究会などを通して広報活動を充実させ、質の高い入学志願者を多数確保する努力を行い定員充足率を100%に近づける。</li> </ul>
---

### Ⅳ 2014 年度目標達成状況

No	評価基準	教育課程・教育内容					
1	中期目標	研究科開設に伴う、プログラム制による体系的なカリキュラムを通じた専門性深化の継続と浸透					
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院生による研究テーマの報告、院生－教員間での理解の深化を目的とする修士論文構想発表会等は引き続き開催し、さらに内容面での充実をはかるべく努力する。</li> <li>・授業改善アンケートの評価結果の改善については質保証委員会を設け、教員間での授業運営、修士論文指導について好事例を共有すべく努力する。</li> </ul>					
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文構想発表会での院生と教員での交流による院生の満足度の向上</li> <li>・授業改善アンケートの評価結果の改善</li> </ul>					
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文構想発表会での院生と教員間での交流を十分行うことができた。</li> <li>・授業改善アンケートの結果等に基づいた議論や授業の工夫などにつき教員間で共有できた。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td>—</td> </tr> </table>	自己評価	S	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文構想発表会での院生と教員間での交流を十分行うことができた。</li> <li>・授業改善アンケートの結果等に基づいた議論や授業の工夫などにつき教員間で共有できた。</li> </ul>	改善策
自己評価	S						
理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文構想発表会での院生と教員間での交流を十分行うことができた。</li> <li>・授業改善アンケートの結果等に基づいた議論や授業の工夫などにつき教員間で共有できた。</li> </ul>						
改善策	—						

No	評価基準	教育方法
2	中期目標	2013年度研究科開設にともなう、より一層の教育研究指導方法の向上を図るなど当初計画の完全な実施。
	年度目標	2013年度研究科開設にともなう、下記の当初計画の着実な実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻領域に関する研究の深化と教員相互間での相互啓発の一層の推進。</li> <li>・修論構想発表会の場での教員による院生へのコメント等を通じた集団指導の一層の充実。</li> <li>・授業目標、授業計画等のシラバス記述の精粗の改善</li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部組織共催の研究会も含め年3回程度の研究会の開催を目指す</li> <li>・年度目標について、研究科教授会での審議を尽くす。</li> </ul>
	年度末報告	自己評価
理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部組織共催の研究会等は3回程度開催することができた。</li> <li>・年度目標について、研究科教授会での審議を十分尽くすことができた。</li> </ul>
改善策		—
No	評価基準	成果
3	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修了生の学会発表、学会誌への投稿等の継続的促進を図る。</li> <li>・研究科修了生のレベルの維持・向上を図り、高度職業人養成機関としての本研究科の社会的地位の継続的な向上を図る。</li> </ul>
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定数の修了生の学会発表、学会誌への投稿の維持・向上を図るべく努力する。</li> <li>・高度職業人養成機関としての本専攻の社会的地位の向上等を通じた入学志願者数を確保し、質保証を重視しつつ定員充足を図るべく努力する。</li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修了生の学会発表件数、学会誌への投稿本数の維持・向上。</li> <li>・研究科修了生のレベルの維持・向上、高度職業人養成機関としての本専攻の社会的地位の向上等を通じた入学志願者数及び定員充足率の維持・向上。</li> </ul>
	年度末報告	自己評価
理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>・修了生の関連学会での報告等は、例年なみの本数を維持できた。</li> <li>・研究科主催のシンポジウムや相談会に昨年度並みに多くの参加者があった。</li> <li>・質保証重視の観点から、合格者は若干昨年度を下回ったものの、入学志願者は昨年度なみに維持することができた。</li> </ul>
改善策		—

#### V 2015年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・教育内容
1	中期目標	研究科開設に伴う、プログラム制による体系的なカリキュラムを通じた専門性深化の継続と浸透
	年度目標	リサーチワークの向上、修士論文の質的向上をさらにはかるため基礎科目「キャリア調査研究法基礎」「量的調査法」「質的調査法」等の教育を充実させ、組織的・体系的なコースワークの充実を図る
	達成指標	基礎科目、共通科目、プログラム科目（①キャリア教育・発達、②ビジネスキャリア）プログラム制による体系的なカリキュラムを通じた専門性の深化を達成する
No	評価基準	教育方法
2	中期目標	2013年度研究科開設にともなう、より一層の教育研究指導方法の向上を図るなど当初計画の完全な実施。
	年度目標	年3回の修士論文発表会をさらに充実させ、論文の集団指導の場としても機能させ、教員・学生ともに相互啓発の場とする
	達成指標	院生の修士論文指導を個別指導、集団指導をさらに充実させ、深化させることにより、教育研究指導方法の向上を達成する
No	評価基準	成果
3	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修了生の学会発表、学会誌への投稿等の継続的促進を図る。</li> <li>・研究科修了生のレベルの維持・向上を図り、高度職業人養成機関としての本研究科の社会的地位の継続的な向上を図る。</li> </ul>
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修了生の関連学会での研究発表、学会誌への論文投稿等の継続的促進を図る。</li> <li>・本研究科に対する社</li> </ul>



	会的認知を拡大させ、優秀な応募者をさらに増やし、質保証を重視しつつも研究科の定員充足を図る努力を継続する。
達成指標	修士生の研究論文を学会発表、学会誌への投稿などをさらに継続して促進し、キャリアデザイン学研究科の社会的認知をさらに向上させ、社会的地位を高める。

## VI 2012年度認証評価 努力課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

## VII 大学評価報告書

<b>大学評価委員会の評価結果への対応に関する所見</b>	
<p>大学評価委員会の評価結果への対応は、その内容を真摯にとらえ取り組みに反映されており、十分な対応がとられているといえる。ただし、キャリアデザイン学研究科の定員の充足率という点で、満足いく結果が得られていないため、対策が必要となっている。まずは、優秀な入学志願者を増やす必要があり、そのための具体策を期待したい。グローバル化への対応については、具体性のある取り組みの検討には至っておらず、さらなる対応が求められる。</p>	
<b>現状分析に対する所見</b>	
<b>1 理念・目的</b>	
1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。	<p>キャリアデザイン学研究科の理念・目的は「経営・教育・心理・文化の4つの専門分野を基盤に置き、個人のキャリアを学際的に研究するとともに、企業・公共団体、NPO、大学・高校などにおいて人々のキャリア支援を行う高度職業人を養成する」として明らかに定義されている。</p>
1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。	<p>キャリアデザイン学研究科の理念・目的は、募集要項、ホームページ、毎年開催されるキャリアデザイン学研究科の公開シンポジウム、大学院紹介冊子などを通じ教職員および学生、受験生等に明示され広く社会に公表し周知されている。</p>
1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	<p>キャリアデザイン学研究科では、大学院生の研究成果物や修士課程修了後の継続的研究活動、学会発表・学会誌への論文投稿などを通して、理念・目的が具体的に達成されているかを定期的に検証するよう努めている。</p>
<b>2 教員・教員組織</b>	
2.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。	<p>キャリアデザイン学研究科は、キャリア教育・発達プログラム、ビジネスキャリアプログラムの2つのプログラム制から構成され科目を配置している。科目は、基礎科目、共通科目、キャリア教育・発達プログラム科目と、ビジネスキャリアプログラム科目の2プログラム科目から構成されている。担当教員はそれぞれがキャリア研究の専門性の高い研究者から構成され、キャリアデザイン学研究科の2つのプログラムではバランスよく科目と教員を編制している。</p> <p>2011年に作成したキャリアデザイン学研究科の大学院担当教員の基準に基づき、高度な専門性、優れた業績をもつ研究者であり、かつ社会における現場でのキャリアに纏わる多様な課題に関する調査・研究の指導が可能な教員を採用し適正に配置しようと努めている。</p> <p>2015年度には新たに「キャリア調査研究法基礎」科目の担当教員を採用し、適正な科目の役割分担が実現した。現在は、基礎科目担当教員、共通科目担当教員、キャリア教育・発達プログラム担当教員、ビジネスキャリアプログラム担当教員が、おおむねバランスよく役割分担を行い、組織的な教育・指導を行っているといえる。</p> <p>専任教員は授業の他、入試、入学相談、シンポジウム、質保証委員、成果物の編集、修士論文指導などの役割を担いその責任を遂行している。また、修士論文の指導担当教員に関しても、院生の希望や教員の専門性を勘案し、執行部が調整を行いキャリアデザイン学研究科教授会で最終決定を行うことにより、責任をもって論文指導を行う体制ができています。</p>
2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	<p>キャリアデザイン学研究科を構成する2つのプログラムのベースとして基礎科目、共通科目を配置している。これらを担当する教員は専門性の高い教育学、経営学、隣接学問分野（心理学、社会学）等の教員であり、キャリアデザイン学研究科の教育理念・目的に叶った教員組織といえる。2015年度は、教員は新たに採用した2名の教員が加わり、十分な専任教員の体制でスムーズな運営のもとで、院生の教育・指導を行っているといえる。院生のアンケートによるフィードバック等からも充実した教員組織を備えていると判断できる。</p> <p>教員の年齢構成については、学部の教員採用とも効果的にリンクさせながら、若手研究者を積極的に採用しており、年齢的な偏りによる教員のアンバランスがないよう配慮している。</p>

<p>2.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。</p> <p>キャリアデザイン学研究科では、2011年度に大学院担当教員の基準を明確化し規定を整備しており、その規定に基づき適切に募集、任免、昇格は実施されているといえる。</p> <p>キャリアデザイン学研究科は社会人大学院生よりなる研究科であり、社会人院生のニーズに適合した高度な教育・研究指導に対応できる教員体制を整備することが必要である。このため、キャリアデザイン学部専任教員採用の折には、大学院教育も担当可能な研究者であることを前提とした採用を行っている。募集に際し、専門領域と大学院カリキュラムとの整合性も同時に勘案しつつ、規定を参照しながら研究科教授会でも意見交換し、結果をキャリアデザイン学部の教員採用人事に反映するように努めている。</p>
<p>2.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。</p> <p>キャリアデザイン学研究科では、FD活動としての一環として、法政大学キャリアデザイン学会を独自に開催し、大学院の他研究科の方々にも公開しており、キャリア研究者、実務家など先端的な研究業績を有する研究者等を演者に招聘し、学会活動を積極的に推進している点は大いに評価に値する。法政大学キャリアデザイン学会は大学院教員、大学院生と修了生や関心のある人々に公開しており、多様な参加者との交流を通し相互の自己研鑽を促進している。</p> <p>また、年間3回大学院生の修士論文の発表会を実施し、全教員、全院生が参加し各研究発表に対しフィードバックを行うことを通して、同研究科をあげて、発表会を修士論文の集団指導の場としており、教員・院生ともに相互啓発の場として機能している。</p> <p>他に、キャリアデザイン学研究科進学希望者のみならず学内外に広く公開し、キャリアデザイン学研究科の研究内容・研究活動を社会に広報し、研究活動を活性化するため、毎年キャリアデザイン学研究科シンポジウムを実施しており、こうした機会によって、研究・指導成果を学外に問うとともに、教員同士の相互啓発や資質の向上にも大いに寄与しているといえる。</p> <p>また、院生の研究成果・業績を『研究成果集』にまとめ、教員・院生が絶えず共有することを通して、研究活動を活性化する努力も継続的に行っている。</p> <p>教員の業績は学部紀要の巻末に一覧を載せている。それとは別に法政大学キャリアデザイン学会紀要などもあり、教員の研究活動を活性化するための評価システムは充実している。</p>
<p><b>3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針</b></p>
<p>3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。</p> <p>キャリアデザイン学研究科では、教育理念に基づき、「学際的な専門知識をベースにしながら自らの職業経験を生かした研究課題を設定し、社会調査の手法を駆使して実証的な課題解明ができることを重視」した学位授与方針を設定している。なお、学位授与方針は学位基準とあわせ、重要事項として周知徹底が行われている。</p>
<p>3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。</p> <p>学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、キャリアデザイン学研究科は、2つのプログラム制を導入し、それぞれのプログラム科目として3つの科目群（「キャリア発達科目群」、「キャリア・プロフェッショナル科目群」、「キャリア政策科目群」）を配置すること、演習科目による論文指導を行うことが、教育課程の編成・実施方針として設定されている。この方針に基づき、体系的な教育課程が編成されている。</p>
<p>3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。</p> <p>2013年度に、経営学研究科より独立した。キャリアデザイン学研究科が開設されたことに伴い、独自の教育理念・目標を掲げ、新たに教育課程を編成し、実施方針、学位授与方針を明確化し、ホームページ、募集要項、大学院シンポジウム、進学相談会などを通して社会に公表している。できるだけ多くの機会を捉えて周知、公表する努力をしているといえる。</p>
<p>3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。</p> <p>教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性に関しては、キャリアデザイン学研究科教授会においてとりあげ、全教員参加の討議を通して検証している。その上で、当面の課題を整理し、改善提案を行い、実行可能な所から具体的に行動に移している。また、学生による「授業改善アンケート」結果を、同研究科のあり方や適切性を検証する貴重な資料としてとらえ、17名全教員分を大学院教授会でコピーして共有し、その内容を精査し検討しており高く評価できる。</p>
<p><b>4 教育課程・教育内容</b></p>
<p>4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p> <p>キャリアデザイン学研究科では、2つのプログラムに対応するプログラム科目が編成されている。コースワークはリサーチワークのための事前準備として位置付けられ、基礎科目およびキャリア発達科目群、キャリア・プロフェッショナル科目群、キャリア政策科目群の3つの科目群と、その上でリサーチワークに対する個別指導を行う「演習」から構成されている。</p>

<p>コースワークと比較して、リサーチワークの科目がシンプルであるが、その対応付けを明確とし、カリキュラム編成をさらに体系化していくことが期待される。</p>
<p>4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</p> <p>キャリアデザイン学研究科では、社会人大学院生の大学院に対する高度なニーズに適正に対応し、教育・指導をさらに充実させるために、毎年カリキュラムや講義内容、教員の配置などを検討し、専門分野の高度化に対応した教育内容とすることに努めているといえる。</p> <p>学生の質を重視し質保証の点から、現状ではグローバル化には至っていない。質が高い留学生の数を増やすなどの努力をすることで、グローバル化の推進を期待したい。</p>
<p><b>5 教育方法</b></p>
<p>5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。</p> <p>キャリアデザイン学研究科では、入学後のオリエンテーション時に、大学院要項、大学院講義要項を参考に、大学院での2年間の学習を展望した履修指導を詳しく行い疑問点に関する質疑応答を行うなど、懇切丁寧な履修指導を行っているといえる。</p> <p>新入生ガイダンスにおける学習指導の内容や、修士論文執筆までに至る流れやその過程は、書面として残している。1年生に対しては、2年生の修士論文研究テーマとその概要の一覧表や修士論文の概要を収めた『研究成果集』を配布し、大学院での研究計画を作成するための参考資料となるようにしている。今後はさらに踏み込み、研究指導計画について、あらかじめ学生が知ることのできる状態となるように、さらなる取り組みを期待したい。</p> <p>学位授与基準を明示し、これに基づいた研究指導、学位論文指導をおこなっている。修士論文構想発表会やその後の指導教員の決定、そして、修士論文中間発表会など、段階的に研究発表を行う場を設けている。修士論文発表の場では、指導教員以外の多くの教員や院生からも研究発表に対するフィードバックがあり、研究の展開と深化のための参考に役立てている。研究指導は、担当教員ごとの指導方法に委ねられており、こうしたフィードバックの場によって研究科全体としての集団的指導につなげている。</p> <p>”学位授与基準6項目”はホームページなどによる入学案内で公表することが望まれる。</p>
<p>5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。</p> <p>キャリアデザイン学研究科では、シラバスの適切性に関しては、執行部がシラバスの内容・形式に事前に目を通し、改善が必要な場合には修正を指示することで適切性を図っている。さらに、「学生による授業改善アンケート」「修了生アンケート」結果によって、シラバスに関し指摘されている課題をキャリアデザイン学研究科教授会の場で取り上げるなどの取り組みにより、シラバスの適切性を検証している。</p> <p>シラバスに沿って授業が行われているかについては、授業改善アンケートの結果により検証が行われている。</p>
<p>5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。</p> <p>キャリアデザイン学研究科では、成績評価は各教員の責任において厳正に行い単位を認定している。修士論文の審査は、学位授与基準に則り、審査が行われ、論文の口述試験後には、主査・副査が評価を照合し意見交換を行い最終的な評価を行うことで厳正評価に努めている。</p>
<p>5.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。</p> <p>キャリアデザイン学研究科では合計3回の修士論文研究発表会によって、教育成果の検証をおこなっている。研究発表会には全教員が出席することで、個々の教育成果を確認し、今後の研究に対する指導が集団でおこなわれている。研究内容に関する議論と、教育研究の方法、指導方法に関する議論を区別することで、客観的な視点から各教員の研究指導を再度見直すとともに、研究科としての取り組みに発展していくことを期待したい。</p> <p>学生による授業改善アンケートの結果は、全授業の集計結果を執行部で検討するとともにキャリアデザイン学研究科教授会において、各教員にアンケート結果をフィードバックするなど、組織的に利用し改善に役立てているといえる。</p>
<p><b>6 成果</b></p>
<p>6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。</p> <p>キャリアデザイン学研究科では、各授業において授業理解度、学習目標への到達度や成果を把握しているとともに、修士論文発表会において、学生の研究進捗度や研究の深化レベルを定期的に確認している。修士論文の審査結果からも、学生の学習・研究成果が教育目標に沿ったものとなっているかを測定している。また、関連学会での研究発表、論文投稿などからも教育・学習成果の測定を行おうとしている。</p>
<p>6.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。</p> <p>キャリアデザイン学研究科では、学位授与基準を明確化し、入学後のガイダンスから詳しく説明し学生に明示している。また、修了生の『研究成果物』を冊子やCD-ROMにし、全員に配布することにより学位論文の審査基準を示し、あらかじめ</p>

<p>学生が知ることができる状態にしている。</p> <p>学位授与状況については把握されており、例年、修士論文提出者に対する学位授与率はほぼ100%、学位取得までの年限は90%強の院生が2年間で学位を取得している。学位の水準を保つために、望ましい基準を院生に入学時から周知徹底させ、大学院での学習に取り組ませるとともに、3回の修士論文発表会を段階的に実施し、論文指導を集団で受ける仕組みによって、その水準を維持するよう努めている。また、修了生の『研究成果集』も学位の水準を明示する参考資料として活用している。論文審査では、学位を授与するに値する水準の研究論文か否かを厳しく審査し、時には主査・副査に加えプログラム内の他の教員も加わり審査を行い、論文審査の適正性を確保し学位の水準維持に取り組んでいる。</p> <p>就職・進学状況の把握については、社会人学生のみでの研究科であるため該当しない。</p>
<p><b>7 学生の受け入れ</b></p>
<p>7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。</p> <p>キャリアデザイン学研究科は社会人を対象とし、「企業や公共団体、NPO、大学、高校等の機関で人事・教育・キャリア支援等を担当する方やキャリアコンサルタントとして、より高度な専門職を目指している方」を求める学生像として掲げた学生の受け入れ方針を設定している。また、研究テーマが研究可能であるかの現実性、テーマの重要性、テーマが本研究科のプログラムに合致し、教員が指導可能であることを受け入れの要件とし、入試要項、ホームページ、大学院シンポジウム、入学相談会などにおいて説明されている。</p>
<p>7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p> <p>キャリアデザイン学研究科では、募集定員に対して入学者数は若干下回っている。学生の質を厳選し質保証重視の観点から選考を行った結果ではあるが、今後は未充足状況を防止するために、様々な手段を通してキャリアデザイン学研究科の広報活動を行い、優秀な志願者を多く集める努力が求められる。</p>
<p>7.3 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。</p> <p>キャリアデザイン学研究科では、学生募集に関しては、さまざまな機会を通して入学志願者に対し入試情報を提供している。入学選抜試験には全教員が関わり、受け入れ方針に基づいて公正な入試を実施しているといえる。入学試験結果に関しては、志願者と入試傾向、その課題を全員で共有することで入学者選抜について検証が行われている。</p>
<p><b>8 管理運営</b></p>
<p>8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。</p> <p>研究科長、副主任による執行部体制をとり、管理運営の主たる責任を担っている。月に1度のキャリアデザイン学研究科教授会では、報告事項、審議事項、それに伴う資料等を文書で明示し、教員全員で機能的に研究科の運営管理を行っている。年度初めの同教授会では、明文化された規定はないが、教員の年間役割分担を決め、各自が責任をもって役割を遂行し研究科を適切に運営している。規定の明文化は今後の課題といえる。</p>
<p><b>9 内部質保証</b></p>
<p>9.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。</p> <p>定例的に開催されるキャリアデザイン学研究科教授会の場で、機会ある毎に質保証に関する話し合いを全教員で行い点検している。また、質保証委員2名を選定し、質保証委員会を年2回開催しており、授業改善アンケートの結果に基づいた意見交換、修士論文評価とその指導のあり方等に関する議論をしている。</p> <p>同教授会において教員全員が質保証の観点から、本研究科の改善課題を明確化し、全員参加で意見交換が行われている。教員の質保証に対する意識は高いといえる。</p> <p>また、学部と同様に「自己点検表」及び「自己点検チェックシート」を現状把握と改善のために活用することを検討してもよいように思われる。</p>
<p><b>その他法令等の遵守状況</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>2014年度目標の達成状況に関する所見</b></p> <p>キャリアデザイン学研究科では、プログラム制による体系的なカリキュラムを通じた専門性深化の継続と浸透のために、構想発表会などを通じて院生と教員間の交流を深めており、改善アンケートのフィードバックなども行っている点は評価できる。また、教授会や研究会などで、年度目標についての審議を十分におこなっている。対外的な発表については例年なみとなっており、研究科の社会的地位の継続的な向上のためにさらなる取り組みを期待したい。</p>
<p><b>2015年度中期・年度目標に関する所見</b></p> <p>教育課程・教育内容について、組織的・体系的なコースワークの充実が目標にあるが、その到達目標を抽象的なことばでなく示すことで、より取り組みの内容を具体化していくことを期待したい。教育方法としては、特にリサーチワークについて</p>

て、修士論文発表会の場だけに頼らなくても教員個々の指導方針と研究科としての一体感を両立させることができる教育研究指導方法の検討を期待したい。また、質保証を重視しつつキャリアデザイン学研究科の定員充足を図るため、優秀な志願者を増やす具体策を打ち出すことが求められる。

**認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見**

該当なし

**総評**

キャリアデザイン学研究科は、2013年度に経営学研究科より独立した比較的新しい研究科であり、段階的にその教育・研究内容を充実・深化させている。キャリア教育・発達プログラム、ビジネスキャリアプログラムの2つのプログラムから構成され、それぞれ科目が設定されており、コースワークとしてのカリキュラムは充実しつつある。一方で、修士論文などのリサーチワークについては、その教育方法について、担当教員に委ねられている部分が多く、定期的な発表会での相互研鑽の場を除くと、学科全体として共有されている部分が少ないともいえる。また、グローバル化において、留学生の受け入れのみでなく、グローバルなキャリア形成のために海外の機関との連携も視野に入れた今後の展開などを期待したい。キャリアデザイン学研究科教授会規程を整備することと、学部生の入学者受け入れについての議論が今後の課題になるかと思われる。